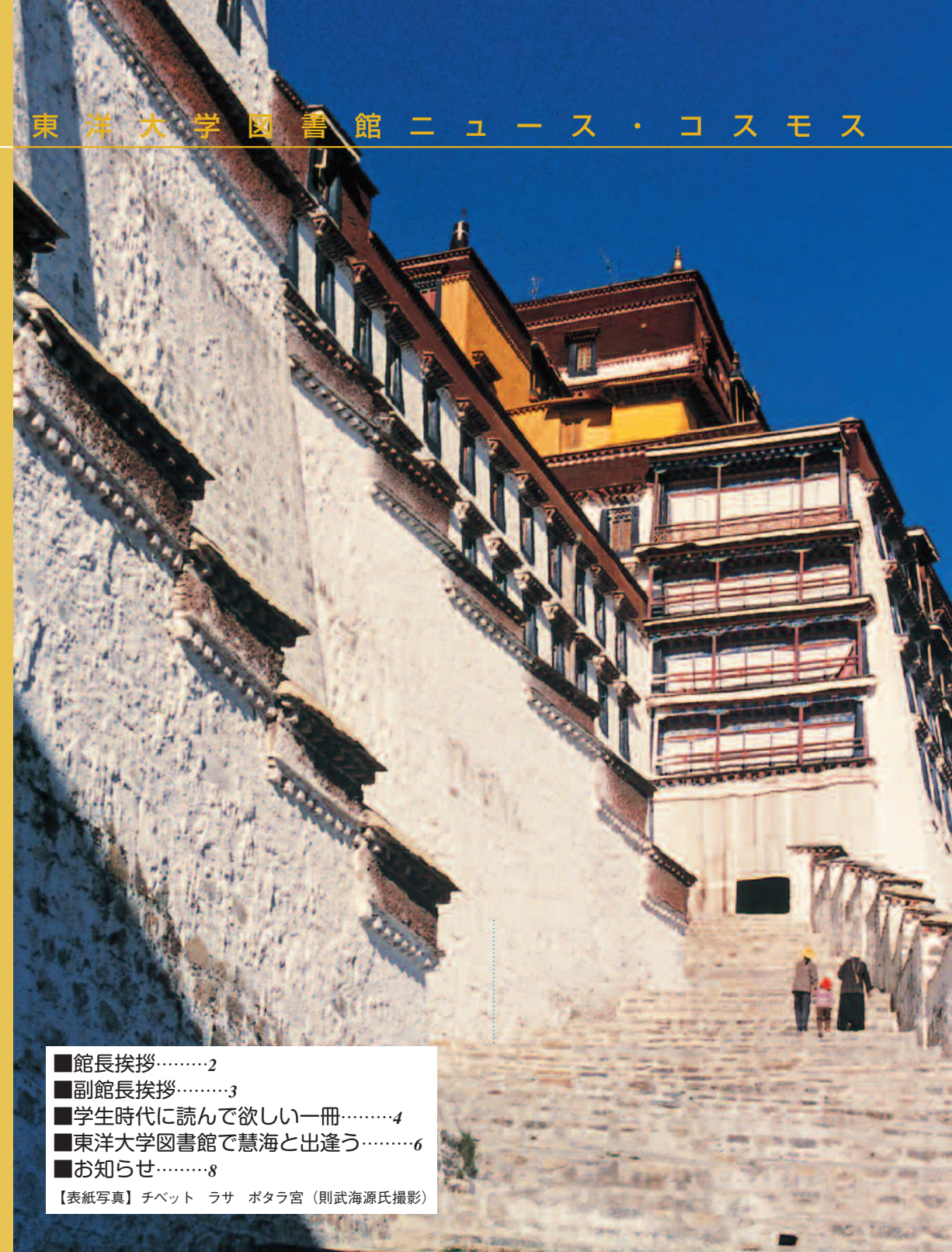


KOSMOS



- 館長挨拶……………2
- 副館長挨拶……………3
- 学生時代に読んで欲しい一冊……………4
- 東洋大学図書館で慧海と出逢う……………6
- お知らせ……………8

【表紙写真】チベット ラサ ポタラ宮 (則武海源氏撮影)



館長挨拶

「認証評価」と教育改革の時代

東洋大学附属図書館 館長
浅野 清
(あさの きよし)
東洋大学経済学部教授



いま日本の大学は規制緩和の流れに沿って、文科省による規制（事前の許認可行政）から徐々に離れて、文科省が認可した「認証機関」による規制（事後チェック）という、一見すると自由なシステムの中に置かれている。このシステムにひっそりとビルトインされているのが「社会的評価」である。

2004年の学校教育法の一部改正により、日本のすべての大学は7年に一度、認証評価を、法科大学院は5年に一度、「適格認定」を受ける。その結果は認証機関によって広く（HPと印刷物）社会に公表される。審査を受けた大学も、「自己点検報告書」と「認証評価結果」をHPで公表する。「助言」や「勧告」を受けた場合には、3年以内に対処して改善報告書の提出が義務づけられる。そのため、教育改革の幻想に囚われてこなかった人々も、「進むも地獄、止まるも地獄」の世界に参入することになる。

先日（3月14日）4つの認証評価機関の代表者が揃い踏みしたシンポが大学基準協会によって開催され、既に認証評価を受けた大学、これから受けようとしている大学の関係者が多数参加した。昔の自己点検活動との差異に、驚きと戸惑いの声をあげる参加者が多かった。

認証評価制度が変わっても、自己点検の目的は変わらない。教育理念（どのような人材を育成するのか）という「目標」に照らして、教育課程がどのように実施され、どんな成果があがり、どんな問題点が浮かび上がっているかを「点検」するだけである（達成度）。この達成度評価に大学としての「水準」評価が加わる。

大学基準協会の場合には、導入教育や補習授業の実施状況の評価と、教育の質向上にむけた厳格な成績評価と単位の質保証に関する評価、キャリア支援への取り組みや卒業後の進路調査と卒業生による母校評価制度の有無に関する評価等が特徴となっている。

図書館に対して大学基準協会が求めている自己点検（C）項目は、主に3つある。(1) 他大学・大学院との相互利用。(2) 電子化されたデータベースのナビゲーション・システムの確立、(3) 保存スペースの狭隘化にともなう集中文献管理センターの整備状況。

図書館について本学は先駆的だと評価できる。(1) 山手線内8大学間の「コンソーシアム」が形成されている。(2) に関しても、教員の個人研究室からデータベースにアクセス可能になっている。(3) については、4キャンパス4図書館間に分散型のネットワークが整備されている。

しかし、初心に戻って、アナログ思考で眺めた場合、いくつかの課題が残る。まず、大学図書館の「個性」形成とその対外的発信について。いま流行の「センター・オブ・エクセレンス」とは、「其処にしか無い」教育・研究資産という意味である。館内所蔵の「お宝」については、大学のHPで「常設展」を開催する意気込みが欲しい。第二に、近隣住民への図書館の開放である。朝霞キャンパス周辺の4市住民への開放ぶりと比較すると、文京区民へのそれは遅れている。第三は、在校生（専門職大学院生や夜間の学生を含む）への「学習の場」を提供するという図書館本来の機能にもっと注力されて良いのではないだろうか。

副館長挨拶

東洋大学附属図書館 副館長（川越）

図書館を大いに活用してください

東洋大学には4つのキャンパスがあり、それぞれに図書館があります。それぞれのキャンパスの図書館は、そこに存在する学部の教育・研究に必要な図書およびその他の資料を収集、管理および運営し、本学の学生・教職員の利用に供するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的にしています。

また、東洋大学は9学部を擁する総合大学であり、本学で学ぶ学生、在職する教職員は広い分野の学術、文化、芸術などの図書資料を手にすることができます。このことはたいへん素晴らしいことと思います。とくにフレッ

東洋大学附属図書館 副館長（朝霞）

ライフデザイン学部とともに歩み始めて

平成17年度より文系5学部が白山キャンパスで1~4年生の一貫教育を再開することになり、それに伴って朝霞キャンパスにライフデザイン学部が新設されたまじ。当学部は福祉に関わるものでありますが、各学科の専攻領域は東洋大学においては新たな教育・研究分野となっています。そのため、4キャンパスの図書館にはそれらの専攻領域に関連した蔵書が少なく、朝霞図書館としては従来と同様に広領域の収書も続けていきますが、特にライフデザイン学関連の図書および雑誌を中心に収書を進めることを基本的な方針としております。また、朝霞図書館はこれまでに隣接4市（朝霞市・志木市・新座

東洋大学附属図書館 副館長（板倉）

板倉図書館の利用者サービス充実に向けて

東洋大学板倉キャンパスに国際地域学部及び生命科学部が開設されて、今年が記念すべき10年目を迎えます。板倉図書館が板倉分館として発足したのが板倉キャンパスの開設された後の4年目、2001年4月です。過去5年間に於いて歴代分館長及び運営委員等の努力で蔵書が充実してまいりました。また日ごろの図書館サービスの向上に事務局の方々が努力されてまいりましたことに敬意を表します。

板倉図書館の利用者は、現在学生約2,400名と教職員約100名の内部利用者の他に、地域住民の利用者が若干名含まれます。板倉図書館の特色は国際地域学部の国際地域学科及び国際観光学科、生命科学部生命科学科並びに各大学院研究科の教育・研究の特色を反映した幅の広い収書が行われています。

シユで多感な若い学生にとっては、専門以外のいろいろな分野の図書にふれ親しむことは貴重な体験の一つと考えます。今では他キャンパスの図書館の図書資料をウェブ上で検索し手にすることが可能になっています。

図書館を大いに活用していただくことを願うとともに図書館もさらに充実するように努力して行きたいと思っております。



新延 泰生
(にいのべ やすお)
東洋大学工学部教授



大迫 正文
(おおさこ まさふみ)
東洋大学
ライフデザイン学部教授

市・和光市)に働きかけ、地域住民の利用を広く受け入れてまいりました。ライフデザイン学部はその専攻領域の特性から、地域との交流を深めながら相互の発展を目指して活動を行っており、朝霞図書館においても学部との連携のもとで、今後も「地域に開かれた図書館づくり」を心がけていくことが、朝霞図書館運営上で必要であると考えております。



井上 博文
(いのうえ ひろふみ)
東洋大学
国際地域学部教授

板倉図書館は、利用しやすい図書館として職員一同サービス向上に力を入れています。収書に対しては教育研究に関わる図書はもちろんのこと一般図書においても利用者の要望に出来るだけ応えるよう心がけています。また図書の貸出しや返却についてもスムーズに出来るよう開館時間を長くして対処しています。特に板倉図書館は地域開放型の図書館であることを特徴としていますので地域住民の方にも利用されるようお待ちしております。

板倉図書館は皆さんの図書館です。知力向上と情報提供の場としてサービスの充実を図り利用しやすい図書館にしていきたいと思います。

学生時代に読んで欲しい一冊

『よくわかる論語 —やさしい現代語訳—』

私が是非、学生の皆さんに読んでほしい本は孔子の『論語』です。『論語』と聞いて漢文の授業を思い出し、アレルギー反応を示す人も多いでしょうが、本書は現代語訳が付き、とても読みやすくなっています。聖徳太子の『十七条憲法』(604年)にも影響を与えたこの古典は、21世紀の現代社会にも通じる点が数多くあり、生きる上での知恵や処世術を私たちに教えてくれます。

いまパソコンや携帯電話で誰とでも気軽にコミュニケーションがとれる便利な時代。逆に社会のさまざまな立場の人と、どのように付き合っていくかは簡単にみえて非常に難しいものです。昨年、私の授業を受けていたある男子学生からメールが来ました。「出席率も悪く、レポートも提出していませんが、すでに就職も内定してるので、ぜひ単位がほしい」。なんと虫のいい事を…と感じた私は、しばらく彼に返事を出しませんでした。するとまた、彼からメールが来ました。「先生が

単位をくれなくても、僕は卒業しますから」と。これは実際にあった出来事で、ひとつの極端な例ですが、願い事があるのなら、まずは実際に出かけて、本人に会う誠意を示すことが大切でしょう。実際に会えないのなら、理解を得た上で、用件をファックスやメールで伝えるというステップを踏むのが常識だと思っていた私は少なからず驚きました。

新聞やニュースを見ていても、特に若い世代の「心の問題」や「道徳心」を問う報道がなされています。また、大学は単に学問をする場ではなく、社会人になるための準備期間でもあります。クラブ・サークル活動やアルバイト、ゼミ、職場体験など、いろいろな場を利用して人間関係を培い、信頼される社会人になる努力をしてほしいと思います。日本人が失いかけている大切な何かを、語りかけてくれる一冊です。ぜひ、手にとってみてください。



白石 真澄
(しらい ますみ)

経済学部
社会経済システム学科 教授
専門テーマ
バリアフリー、少子・高齢化と地域システム
著書
『バリアフリーのまちづくり』(日本経済新聞社)、『福祉の仕事』(共著、日経事業出版)ほか

紹介書籍

書名:

『よくわかる論語 —やさしい現代語訳—』

著者:永井 輝
出版社:明窓出版
ISBN: 4896340612

日記ノススメ ~表三郎「日記の魔力」~



村上 真
(むらかみ まこと)

工学部
情報工学科 助教授
専門テーマ
画像情報処理、人物像認識、
ヒューマンインターフェース

紹介書籍

書名:

『日記の魔力—この習慣が人生を劇的に変える—』

著者:表 三郎
出版社:サンマーク出版
ISBN: 4763196022

皆さんは日記を書いているでしょうか?私は何度か日記を書こうと決意しましたが、長続きしませんでした。その原因は、日記の活用方法がわからず、その活用方法に合った日記の書き方・読み方をしなかった、ということにあります。表三郎著「日記の魔力」には、それらがわかりやすく説明してあります。ここでは私が約1年間日記を書き続けて得られた効果の一部を紹介したいと思います。

私が日記に書いている内容は、「いつどこで何をし何を考えたか」という単なる記録です。そのため何も書くことがなくて困るということはありません。ただし、これは未来の自分が読むための記録なので、書き方には注意が必要です。つまり、日記を書いている今の自分にはわかっているから省略した内容が、未来の自分にはわからないことがあるので、未来の自分と対話しながら書く必要があります。日記に限らず文章には必ず読み手があります。その読み手を意識して対話しながら

文章を書く訓練が日記によってなされます。

また、内容に関して苦勞するのが「何を考えたか」を書くときです。ふとした瞬間に浮かんでくるアイデアはいままでのことであることが多いので、それを文章の形で記録して未来の自分が読んででも理解できるようにするには、それを深く考え整理するという作業が必要となるからです。しかし、この作業を繰り返せば、確実にものごとを深く考える能力が向上します。また、その日記を読み返してみると、思考の過程や状況までが蘇ってきます。この過去の自分の考えを現在の自分の立場でもう一度考え、これを繰り返すことで考えが熟成されていきます。

日記を書くことは、レポート等を書く際や研究において問題を深く考える際に非常に役に立つというのが私の感想です。また、表氏も言っていますが「日記は人生のサポーター」になり得ます。是非「日記の魔力」を読んで、実際に日記をつけてみることをお勧めします。

「学生時代に読んでほしい一冊」

今手元にある本はつい先頃買ったばかりの中央公論社の世界の名著「ダーウィン」の本である(昔の本が手元になかった)。この本の中の「人類の起源」を読むと若い頃のことを思い出される。実験化学を志した契機になった本の一冊でもある。この本に記載されている「人間はある下等な生物から派生した」と結論した多くの根拠に感銘を受け、さらに彼の正確な観察力と文献調査能力の素晴らしさに驚く。近頃、新聞やマスコミに取り上げられている生命科学における論文捏造は観察した正確な記録と関連文献の引用があれば、決して起こることではない、極めて残念なことである。この本を是非、読んでほしい。

他に、推薦したい本について簡単に触れておきたい。一つはファーブルの昆虫記である(今、書店に日本語訳が沢山出ている)。昆虫記の第一巻が1879年、最後の十巻は1907年に出版されたが、昆虫の行動と本能に対する卓越した観察力と記録した文章の詩的さには感動する。この中の一巻でも読んで、実験ノートの記事の参考にしてほしい。また、このファーブル昆虫記を物質サイドから書かれ

た大日本図書の「新ファーブル昆虫記」はファーブルが観察した昆虫の本能を化学的にまとめたもので、一読し、化学に興味を持ってほしい。さらに、柳田充弘先生が書かれた「DNA学のすすめ」は生命科学を学ぶ若い諸君にとって必読書である。もう一冊、自然を学び、現在の世界環境をどのように後世に伝えてゆくかを考える一助になる本として、三共出版の「化学生態学への招待」も一読に値する。ここに紹介した本はすべて科学、特に生命科学を学ぶ学生に一読してほしい本であるが、最後に、良い文学書に親しみ、日本語の美しさを学び、将来、文章を書くための手本としてほしい。偏った本の紹介になりましたが、是非皆さんお読みください。

紹介書籍

書名:『新ファーブル昆虫記』

出版社:大日本図書
ISBN: 447700141 X

書名:『DNA学のすすめ 躍動する生命の二重らせん』

講談社ブルーバックス

著者:柳田 充弘

出版社:講談社
ISBN: 4061181823

書名:『化学生態学への招待—化学の言葉で生物の神秘を探る—』

出版社:三共出版
ISBN: 4782703376



野本 享資
(のもと きょうすけ)

生命科学部
生命科学科 元教授
元板倉分館長
専門テーマ
生物有機化学、天然物化学

エキスパートになりたい人へ!?

著者はインド人で、カトリックの神父さんです。東洋に伝わる愛と知恵のはなしを集めた本です。

童話のようなやさしい語り口です。神父さんだからといって、キリストのはなしばかりではありません。

トルコの賢者ナスレディンも出てきます。ブッダも出てきます。アラビアのはなしもあります。

中国や日本のはなしもあります。良寛さんも出てきます。

たとえば、こんなのはどうでしょう?—ナスレディンは卵を売って生計をたてていました。ある人が彼の店に来て言いました。

「わたしが手のなかに何を持っているか、当ててごらん下さい」

「ヒントを言ってください」とナスレディンが言いました。

「いくつか言ってあげましょう。それは卵の形をしており、卵の大きさです。

卵のように見え、卵のような味で、卵のようなにおいがします。内側は黄色と白です。

料理をするまえは液体ですが、熱を加えると固体になります。おまけにそれは、めんどりから産まれます…」

「あ、わかった!」とナスレディンは言いました。「それはケーキのようなものですね!」

—このはなしを読んでどんなことを感じました?

エキスパートは時として、わかりきったことをまちがえるということ?

なんでもいいけど、あなたが感じたことをあなた以外のだれかに当てはめてはいけません。

それはあなたにとって損失にしかありません。

著者も言っています。どのはなしも「他のだれのためでもない。〈あなた〉のためにある」のですから。

チベットを目指した先輩

東洋大学図書館で慧海と出逢う

文学部インド哲学科元教授 川崎 信定

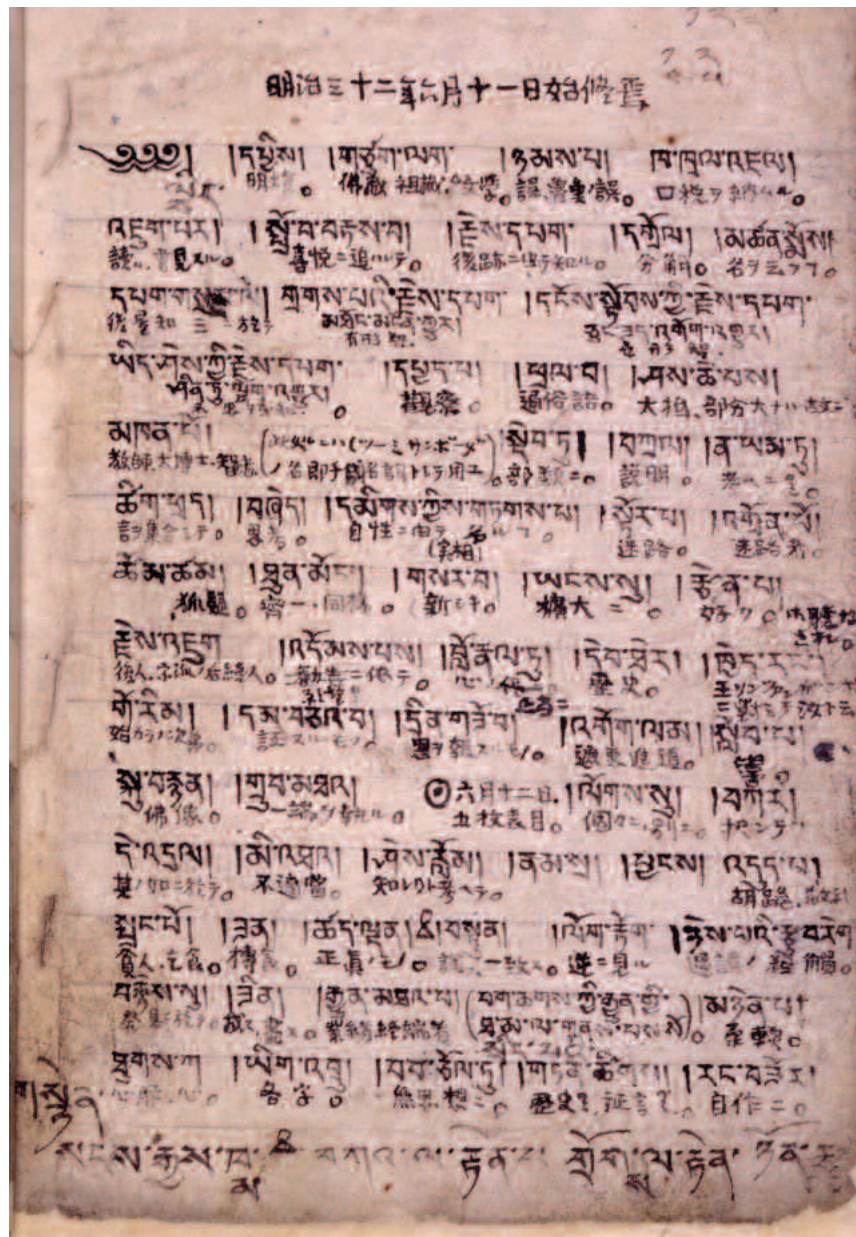
〈河口慧海（カワグチエカイ）〉とウェブ検索にかけると、何件ヒットすると思いますか？ Yahoo! Japanで約47,200、Googleで約25,200件と、実に膨大な数にのぼる。慧海と同じく東洋大学出身の〈坂口安吾〉とヒット数はどちらが多いでしょう。興味があったら検索してみてください。

さて慧海とは？

ウェブサイトからは、〈鎖国チベットに単身潜入〉・〈ヒマラヤ山脈越えの冒険家〉・〈偉大な仏教求法者〉・〈百五年ぶりに慧海日記が発見される！〉・〈パンチェン・ラマからの贈り物〉・〈山のような梵語・西藏語文献〉・〈動物・押し葉・化石標本〉・

〈貴重な仏像仏画蒐集〉・〈黄檗宗を脱して真摯な在家仏教活動〉・〈慧海の哲学館出席簿〉・〈日本より海外で有名なThree Years in Tibet〉などなど……

チベット研究の先駆者河口慧海師（1866～1945、以下、敬称省略）がダウラギリ北雪峰尾根を越えてチベ



「西藏土語大文典修學日誌表」慧海直筆

明治32年、ネパールのツァランで、セーラブ・ギェルツェン師に『シトウ三十頌』難語釈を学んだ時のノートで、後の慧海師の『西藏文典』のもととなる貴重な資料。東洋大学附属図書館所蔵。



ラマ僧の正装をした慧海

ット領に入ったのが、明治33（1900）年7月4日のことである。慧海（幼名：定治郎）は東洋大学の前身である哲学館で開学1年目の明治21年春から始めは通信教育学生（館外生）として、その後上京して苦学しながら中断を含めて明治25年まで学んでいる。もう一人の哲学館で明治24年から26年まで学んだ能海寛だが、すでに数年前からチベット入国を目指し、不幸にして中国辺境の地で消息が絶えている。何故、この時代のわれらの先輩たちは、これほどまでチベット行を志したのだろうか。

河口慧海は次のように記している。

「宇治の黄檗山で一切藏経を読みふけていて、漢訳經典の内容に違いがあることに気づいた。原典にあたってみなければわからないが、すでにインドに仏教はない。今はネパール、チベットに存在するという。その原書を得るためにはネパール、チベットへ行かなくてはならない。」

能海寛も、次のように記す。

「印度雪山の背後ゴビ大砂漠の南方に当たり、海面を抜くこと一万尺以上の高原において、幅員は我が日本に四倍余り、人口は五～六百万から千万なる国あり。これ即ち西藏国なりとす。…インド直伝のチベット仏教の原本を探索し、仏教国の仏教徒同士の交流をはかることは、大乘仏教徒たる日本仏教徒の責任である。」

彼ら二人に共通する先生は、当時オックスフォード大学で最新のインド研究をして帰国したばかりの南條文雄で、この先生から得た知識情報が、〈釈尊の教えの忠実で正確な原典はチベットにある〉だった。二人の心に芽生えた願望は〈なんとかこれを手に入れたい〉そして二人それぞれが仏法求道目的のためのチベット単独行を必死の覚悟で試みたのであった。

それから奇しくも約百年余りを経過した今日、もはやチベットは秘境ではない。日本からも年間多数の団体ツアーが送り込まれるラサのポタラ宮近辺は多くの旅行者が訪れる観光名所と化している。インターネットのホームページ（例えば<http://www.tibet.to/>）からは、チベット絵画タンカの実習やチベット料理の集い、口語会話教室、来日リンポチェ（高僧）による祈願法要など、同好の友との集いの情報連絡が飛び交い、チベット関係の旅行ガイドブック・医学薬事書・瞑想

法・占星術などの出版書や翻訳本は街の書店の書棚を賑々しく飾る。日本山岳会関西支部では70周年記念事業として、西チベットの海拔五千メートルを超えるチャンタン高原に慧海足跡調査隊を派遣して峠・池・霊場の同定精査を繰り返し、成果をあげている。「慧海は磁石で方角を知ったのか？」・「飼主の同道なしでヤクの背に乗って山越え可能か？」の積年の疑問解決案も提供されている。『河口慧海著作集』（全17巻・別巻3、うしお書房）も昨年完結した。

慧海は、帰国後に大正8年からは東洋大学仏教講座で講師としてチベット語を教えている。このように慧海と長く固く深い縁に結ばれた当大学図書館には、当然ながら、師から寄贈された初版本『西藏旅行記』をはじめ、師の没後にも継続して蒐集された修学日誌・講演原稿・交友録や、『法心経』など自筆未公開資料が数多く大切に保管されている。

ネット情報は早く多量に入手できる。でも点と線の集合に終わって、生きた知識にならない危険も含まれている。ぜひ、宝の山・図書館の書庫に入って本の厚み・重みを自分の手で実感してほしい。筆者自身も『原典訳チベットの死者の書』（ちくま学芸文庫）を翻訳した時に、慧海師が日本に将来した紺紙金銀泥のチベット絹装丁本に東洋文庫の書棚で手を触れた。そして慧海師に直接チベット語を教えたチャンドラ・ダース大先生が編纂したTibetan-English Dictionary (Calcutta, 1902) で一語一語を確かめた。ともすれば怠けようとする筆者の背には慧海師の励ましの鞭が飛ぶ思いがした。

川崎 信定

(かわさきしんじょう)

文学部インド哲学科元教授
筑波大学名誉教授
東京大学教養学部教養学科卒業
同大学院印度哲学博士課程修了
第84回日本学士院賞受賞
文学博士・日本西藏学会委員



著書：『一切智思想の研究』（春秋社）
『原典訳 チベットの死者の書』（ちくま学芸文庫）
『インドの思想』（放送大学教育振興会）
『釈尊の教え』（中山書房仏書林） ほか。

内覧会・常設展を開催しました。

白山図書館、川越図書館、朝霞図書館、板倉図書館の4館にて、魅力的な所蔵資料展を開催しました。

井上円了記念館で開催した貴重書内覧会においては、学生・教職員の方々を一般の来館者など、約250名の方々が来場されました。

貴重書内覧会

白山キャンパス 井上円了記念館1Fラウンジ

平成17年11月10日(木)～平成17年11月12日(土)

三十六歌仙絵巻、時代不同歌合絵巻、奈良絵本「さころも」、坂口安吾 自筆原稿・初版本、河口慧海関係資料ほか



常設展

白山図書館

「書の魅力を探る」

10月1日(土)～11月30日(水)

井上円了の書幅、現代学生百人一首の額装などを展示

「東洋大学が生んだ文豪、坂口安吾生誕100年展」

12月1日(木)～1月31日(火)

坂口安吾の写真パネル、肉筆原稿を公開

「江戸、明治期の資料で見る女子教育」

3月1日(水)～4月28日(金)

「萬葉百人一首色紙箱」「文明論女大學」等の古書を展示

川越図書館

「百鬼丸展」

10月18日(火)～10月21日(金)

本学卒業生(建築学科73年卒)で切り絵・クラフト作家である本学所蔵の百鬼丸氏の作品(書籍カバーなど)を展示

「日光建築装飾図」

11月15日(火)～11月18日(金)

本学所蔵の「日光建築装飾図」から江戸時代の製図、装飾の技術等を紹介

朝霞図書館

「伝統文化と子どもの遊び～新春行事に見る遊具～」

12月1日(木)～12月22日(木)

お正月の遊びを中心に、日本の伝統的な遊びにまつわる資料を展示

板倉図書館

「学祖 井上円了を知る」

10月17日(月)～10月28日(金)

本学所蔵の井上円了直筆資料、井上円了著作を紹介



「日光探訪」

12月1日(木)～12月16日(土)

「日光建築装飾図」、「日光東照宮竜図案集」、「日光御成道分間延絵図」、日光社寺文化財保存会及び東照宮、輪王寺所蔵 東照宮五重塔丸桁及び透塀欄間彫刻等の見取図、手板、修理道具(型紙、金箔)等の展示

「白山第2キャンパス図書資料室」開室

平成18年4月1日(土)より白山第2キャンパスに「白山第2キャンパス図書資料室」が開室されました。

法科大学院移設に伴い開室された図書資料室には、法律関連資料を配備し、法令・判例検索が可能な端末を8台設置しております。

利用者の方々の個人情報取扱いについて

東洋大学附属図書館では、利用者の皆様から取得した個人情報は以下のように取扱い致します。

利用目的

- ・資料の貸出
- ・資料の予約
- ・他大学への閲覧紹介状の発行
- ・資料調査の対応
- ・文献複写・相互貸借の依頼
- ・貸出図書延滞時の督促
- ・入館統計管理
- ・施設予約管理

以上の目的以外では使用いたしません。

本人から直接書面により個人情報を取得するときは、原則として本人に利用目的を明示します。